

酒蔵こだわりの無添加・ノンアルコールの “甘酒”の開発

支援機関 愛媛信用金庫 支援内容 新商品開発 支援区分 新商品開発

株式会社 八木酒造部

事業者 概要

社名／株式会社 八木酒造部
代表者名／代表取締役 八木 伸樹
業種／清酒製造業
所在地／今治市旭町三丁目3番地8
資本金／15,750,000円
設立／昭和25年10月3日（創業：天保2年）
従業員数／7名



無添加“KOJI amazake”

支援に至る経緯

【会社概要】 株式会社八木酒造部（以下、「当社」という）は、江戸時代末期、幕末の天保2年に創業した清酒製造業者である。先代から引き継いだ代表取締役社長の八木伸樹氏は、近年の清酒需要減少に対応するため、原材料である酵母・酒米にこだわった少量多品種・高付加価値の精酒の生産を開始した。さらには、新たな販路を獲得するため、海外輸出にも積極的に取り組んでいる。

当社の主な販路は、県内が圧倒的に多く、地元今治市内唯一の蔵元として市内における売上構成比が高い。なお、最近の市場動向としては、地元今治市は、しまなみ海道やサイクリング人気の高まりによって観光客数が増加傾向にあり、周辺の宿泊施設からは観光客が直接購入に訪ねてくるほどである。

【経緯】 当社の社長である八木氏は、試飲会等のイベントで消費者の声を直接聞く機会が多く、観光客を含めノンアルコールの商品に対する問い合わせが増えていると感じていた。今回、愛媛信用金庫に商品開発について相談したことがきっかけで、公益財団法人えひめ産業振興財団（以下、「財団」という）の専門家派遣事業を活用した連携支援を開始するに至った。

支援内容

当社の主要顧客層について分析を行った結果、30代から40代の女性からの評価が高く、リピーターとなっていることがわかった。専門家からの助言を受けながら商品開発の方向性を検討していった結果、美容と健康に関心の高い既存の主要顧客層をターゲットとし、米麴本来の味を活かした無添加ノンアルコールの“甘酒”の開発に着手することとなった。

商品開発に当たっては、愛媛県内にある日本酒の愛好家グループの協力を得られることが決まり、当社の取組みが異業種との連携による新商品開発事業に該当することから、財団の「チャレンジプラン（新商品研究開発支援事業）」に採択されることとなった。

支援の効果

当社は、支援事業を活用して“甘酒”を試作するための設備を導入し、試作品の開発から商品化まで順調に進めていくことができた。

【試飲会の開催】平成29年4月に行われた酒蔵のイベントでは、試作した“甘酒”の試飲会を開催し、試飲した人を対象にアンケートを実施。アンケートは専門家のアドバイスのもとに作成し、価格や量、味などを5段階評価で回答していただくことで商品化に向けて、消費者ニーズの収集を行った。



【試作品の見直し・改良】イベント後は、アンケート結果を参考に社内でグループワークを行い、味や飲みやすさ、パッケージなどの改良を重ねていった。

その結果、試飲会から約半年後のイベントにおいて、こだわりの甘酒“KOJI amazake”として販売を開始することができた。

今後の展開

当社の“甘酒”は、すっきりとしていて飲みやすいと好評で、イベント用に準備した100本が2時間ほどで完売。完売後も多くの方にお問い合わせいただいたが、試作開発用に使用している設備では1回当たりの生産量が少なく安定的な供給が難しいため、追加の予約注文を受けることができなかった。

イベントでの結果を踏まえ、今後は、“甘酒”を増産するための新たな設備の導入を検討しており、より多くの方に当社の商品を提供できるように早急に増産体制を整えていきたいと考えている。また、当社は、今回発売した“甘酒”について、清酒と同様、日本国内だけでなく海外に向けて販路を拡大していくことを目標としており、海外で当社の“甘酒”が飲まれることを期待している。

事業者の声

新商品の開発を行う際、いつも一人で悶々と悩むことが多いのですが、今回は他社事例の調査に始まり、コンセプト作りやターゲットの選定、設備投資からマーケティングまで、定期的にディスカッションを重ねて幅広くサポートいただくことで、無事商品化まで漕ぎつけることが出来ました。



代表取締役 八木 伸樹

支援者の声

今回ご支援させていただき、八木社長の自社商品に対する強い思いが伝わってきました。開発した商品は、ノンアルコールではあるものの蔵元としてのこだわりがぎっしりと詰まった商品であり、当社の清酒“山丹正宗”とともに代表的な商品となるよう期待しています。今後も、“KOJI amazake”が多くの方に愛される商品となるよう、継続的にお手伝いさせていただきます。



愛媛信用金庫
担当 三好 孝則